
シンポジウム 1

維新企画 1：前立腺肥大症の新しい手術療法

座 長 羽 賀 宣 博 (福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座)
和 田 耕一郎 (島根大学医学部 泌尿器科学講座)

座長のことば

前立腺肥大症は泌尿器科領域で最も頻度の高い common disease の一つであり、排尿障害は患者の QOL に直結する重要な因子である。初期治療としては内服薬が中心となるが、効果が不十分な場合には全身状態・合併症・患者や家族の希望などを総合的に評価したうえで、手術療法が選択される。

従来 TURP (経尿道的前立腺切除術) や HoLEP (ホルミウムレーザー前立腺核出術) がゴールドスタンダードとして広く実施されてきた。一方で、超高齢化社会に適応した新たな低侵襲手術が次々と登場し、まさに「百花繚乱」「維新」とも言うべき状況にある。多様な術式を理解し、適切に導入・運用していくことが臨床医に求められている。

このような背景のもと、本シンポジウム「前立腺肥大症の新しい手術療法」において座長を拝命し、5 名のスペシャリストに現状と展望についてご講演いただいた。術式の機序、特徴、手技、ラーニングカーブ、導入コストなど、臨床医が関心を寄せるポイントが網羅された非常に有意義なセッションとなった。

SYI-1

当院における経尿道的前立腺吊り上げ術の治療経験
井出 健弘 先生

近年急速に普及しつつある UroLift[®] について、自験例に文献的考察を加えて詳述した。麻酔法や具体的な手技に加え、LIFT 試験および IMPACT 試験の結果を踏まえ、適応および注意点を明確に示した実践的な内容であった。

SYI-2

REZUM による経尿道的前立腺水蒸気治療 (WAVE)

の特徴と当院での治療成績

荒巻 和伸 先生

WAVE 治療の原理、術式、合併症について、自験例を踏まえて解説した。麻酔や手術リスクに関する情報に加え、中葉肥大や前立腺容積が 80 mL 以上の症例にも適応可能であることを具体的に提示した。壊死物質、結石形成、感染症など合併症の検討も極めて示唆に富む内容であった。

SYI-3

Pressure Flow Study から診る接触式レーザー前立腺蒸散術 (CVP) の治療効果

一百花繚乱の低侵襲治療における位置付け

藏野 吉隆 先生

術前後の Pressure Flow Study (PFS) による排尿機能の変化を体系的に解析した。尿路閉塞症状および排尿機能は CVP により有意に改善した一方、蓄尿機能には変化がみられなかった点を明確に示し、今後の治療の方向性についても考察を加えた。

SYI-4

維新企画としての医療革新：前立腺肥大症治療の未来～短時間・低侵襲を実現する Thu-VAP の可能性～

藤川 愛子 先生

200 例以上の Thu-VAP 実施症例の解析結果を報告した。特に、尿閉症例における高いカテーテルフリー率や後出血などの合併症が少ない点を示し、医師のワークライフバランス向上にも資する術式であること、患者側にも低侵襲性という利点があることなど、幅広い視点から解説された。

SYI-5

Aquablation の現在地

宮内 聡秀 先生

2023年に保険適用となった Aquablation について、導入経験と治療成績を報告した。尿失禁予防や性功能温存のためのコツ、術中出血への対応などを画像とともに提示し、希少な実臨床データとして非常に貴重な内容であった。導入施設が少ない中で、今後の展望についての言及も印象的であった。

新しい前立腺肥大症手術の進化に関し、5名の演者がリアルワールドデータを基に分かりやすく解説し、現状と将来展望を示した。今回紹介されなかった術式も含め、多様な選択肢の中から自施設に適した術式を検討するうえで大きな示唆を与えるセッションとなった。

最後に、座長の機会を賜った井上啓史会長に深く感謝申し上げるとともに、本領域のさらなる発展と患者が享受する恩恵の拡大を期待する。
